

ふくやま ピースラボ

平和を学び！考え！発信！



2018年度 ふくやまピース・ラボ事業 活動報告集

福山市人権平和資料館

全23回 活動報告

第1回 (2018.5.27) 開講式/ワークショップ



「平和について学び、考え、広く発信していこう!」と、ふくやまピース・ラボ4年目の活動が始まりました。



「同世代の人と交流し、さまざまな意見が聞きたい。昨年参加して、仲間と楽しく交流ができた。新たなイベントに参加したい。」など、さまざまな思いをもって参加してくれました。グループワークでは、学校や学年が違う仲間との話合いに、はじめは緊張していた様子でしたが、次第に打ち解け、多くのアイデアが飛び交いました。

第2回 講義 (6.3) 「福山空襲の実相と戦時下の暮らし」

なぜ、福山の街が空襲の標的となったのか、どのような経路でどのような爆弾が落とされたのか、戦時中の食糧不足や衣服のこと、市民の生活の様子など、貴重な写真や資料を用いて説明していただきました。



▼ 講師:北村 剛志さん
(元人権平和資料館副館長)

《感想》

- ・福山空襲について知らないことが、たくさんあった。
- ・現在の私の生活と比べた。感謝の気持ちをもって、生活していこうと思った。
- ・戦後詠まれた句をきいて、当時の人はほっとしたような、安心した気持ちだったのではないかと感じた。

第3回 (6.17) 福山市内戦争遺跡巡り

《ルート》

人権平和資料館→備後遺族会館→慰霊碑→備後護国神社→防空壕跡(丸之内)→福寿会館(安部和助別邸)→福山城ほか



▼ 講師:佐道 弘之さん
(元福山市文化財保護審議会委員)

第4回 講義 (7.15) 「福山空襲～母と子の八月八日～」

人権平和資料館に展示している実物の焼夷弾や、神風特別攻撃隊の出撃についての写真パネル、「母と子の八月八日」の絵本などを用いて、実体験を交えた貴重なお話を聞かせていただきました。

《感想》

- ・母子三人像のモデルとなった親子が実際にいることを初めて知った。抱き合った形で発見されたというのがとても印象に残った。
- ・「焼夷弾が1人に3発…」という話に衝撃を受けた。
- ・改めて、戦争がどれほど恐ろしく、辛いものかわかった。



▼ 講師:田邊 準一郎さん
(元人権平和資料館副館長)

※第5回 (7.29) は台風のため中止

第6回 (8.5) 8月5日体験活動 in 広島

この日は、広島市を訪れ平和学習を行いました。まず、旧日本銀行広島支店で開催された「広島平和記念資料館収蔵資料展」を見学しました。アメリカで新たに収集した写真や原爆の絵など、貴重な資料を特別に見ることができました。

広島平和記念資料館では、「被爆体験伝承講話」を聴講し、資料館の見学も行いました。その後、平和記念公園に移動し、外国からきた観光客やボランティア活動を行っている人々にインタビューをして交流を行いました。



第7回 「2018市民平和のつどい・第64回市民平和大会」運営スタッフ (8.8) 「第64回原爆・福山戦災死没者慰霊式」参加

1945年の福山空襲があった8月8日、世界の平和と人権の尊さについて考えることを目的に毎年開催されている「2018市民平和のつどい・第64回市民平和大会」に運営ボランティアとして参加しました。

同日、17時30分からは「第64回原爆・福山戦災死没者慰霊式」に出席し、献花・追悼のことは・折り鶴献納を行いました。「戦争を知らない私たちは、戦争を体験した方や残された資料などから、悲惨な戦争体験や歴史を正しく学ぶべきだと考えます。」「今の僕たちにとって大切なことは、この悲劇を忘れず、未来につなげていくことです。」と力強く伝えました。

ふくやまピース・ラボのほか、多くの市民が花や折り鶴などを捧げ、平和への誓いを新たにしました。



第8回・第9回・第10回・第11回・第12回 (9.2/9.16/10.7/10.14/10.21)

これまでの学習を生かし 「ピースラリー」開催に向けて



夏のイベントが終わり、ふくやまピース・ラボ後半の活動が始まりました。まずは、8月5日に広島市で行った体験活動の振り返りを行い、インタビューした内容の意見交換を行いました。

そして、これまでの活動の中で学んだことを生かし、多くの人に平和の大切さを発信するため、今年も「ピースラリー」の実施に向け準備を始めました。福山城公園内の戦争遺跡をスタンプラリーという形で紹介し、福山空襲などについて理解を深めてもらうことを目的としています。

本番の11月3日に向け、役割分担を行い、マップ・参加記念品づくり、アンケート作成など意見を出し合いながら準備を進めました。昨年の反省を生かしながら、わかりやすいマップを描いたり、100個の折りばら完成をめざし、みんなで取り組みました。

第13回 ふくやまピース・ラボ企画！「ピースラリー」開催 (11.3)

▼受付
(福山市人権平和資料館)



▼チェックポイント①
(備後護国神社・慰霊碑)



▼チェックポイント②
(防空壕跡)



▼チェックポイント③
(福寿会館・安部和助別邸)



今年のピースラリーの参加者は、昨年を大きく上回り、245人となりました！中には、昨年に引き続き、2回目の参加で「楽しみにしていました！」という嬉しい声を聞くことができました。また、アンケートも実施した結果、わたしたち「ふくやまピース・ラボ」を知っている人の割合が昨年よりも増えたことがわかりました。

ピースラリーを通して、多くの人に福山に残る戦争遺跡を知ってもらい、平和の大切さについて考えてもらうと共に、私たちの活動についても知ってもらえることができ、とてもいい経験となりました！

第13回 (11.3)

ふくやまピース・ラボ企画！「ピースラリー」開催（続き）

▼チェックポイント④
(福山城石垣)



▼チェックポイント⑤
(福山城天守閣)



▼館内の様子



▼閉会式
(福山市人権平和資料館)



《ピースラリー参加者の感想》

- ・5ヶ所全部で学生さんが説明をしてくださり、楽しく勉強できた。
- ・福山に空襲があったことは知っていたが、実際に防空壕や慰霊碑を見る機会がなかったのでとても勉強になった。
- ・中高生が一生懸命に取り組んでいることに希望を感じる。
- ・長年福山に住んでいても、まだまだ知らないことがたくさんあると実感した。
- ・普段通らないところに、いろいろ戦争の傷跡が残っていた。
- ・今、平和だと思えることも大事だが、平和について考えることもとても大事だと思った。
- ・ピースラリーに参加できてよかった。
- ・広島では平和活動が盛んだが、福山でもこのように活動していることを今回初めて知った。今日は、受付の学生さんに声をかけてもらって参加した。よい機会なので、もっと多くの人に参加してもらいたい。



第14回・第15回・第16回・第17回 「2018ふくやま人権・平和フェスタ」に向けて (11.11/11.25/12.2/12.8) (準備からリハーサルまで)



今年の「ふくやま人権・平和フェスタ」では、広島に投下された原子爆弾によって多数が犠牲となった、広島県立広島第一中学校の遺族による追悼集を題材とした朗読劇を行うことになりました。

当時の広島の街の様子や状況について、地図を使って学びながら、登場人物の状況や気持ちをみんなで考えました。そして、メンバーそれぞれが演じたい人物を話し合い、準備をすすめました。

本番までの準備期間が短く、全員そろっての練習が難しい状況の中、各自練習を行いました。

リハーサルでは、本番同様ステージへ上がり、立ち位置やマイクの位置など確認しました。全員揃うことができませんでしたが、マイクを通しての練習に緊張感も伝わり、気合いの入ったリハーサルを行うことができました。

昨年同様、ボランティアとして収益金を寄付するため、「ピースコーン」の販売も行います。リハーサルを終えた後はポップコーン作りの練習も行い、翌日の「ふくやま人権・平和フェスタ」に備えました。

第18回
(12.9)

「2018ふくやま人権・平和フェスタ」

限られた時間の中での準備や練習でしたが、メンバーそれぞれが一生懸命練習した結果、本番では息を合わせた朗読劇を行なうことができました。

「心を込めた朗読に感動した!」と、声をかけてくださった方もおり、「戦争はいやだ。尊いのは人の命。」と会場全体に届けられました。

また、多くの方のご協力のおかげで「ピースコーン」の売上を「ユニセフ」と「原水爆禁止運動福山推進連盟」に寄付することができました。



第19回 「ユニセフ募金」ボランティア参加 (12.16)

広島県ユニセフ協会から依頼を受け毎年12月の第3日曜日に行われている「ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金」に参加しました。

5・6秒に1人の割合で失われる5歳未満の小さな命。「すべての子どもに5歳の誕生日を」というスローガンのもと、幼い子どもたちの命を守るための支援を呼びかけました。

たくさんのご協力、ありがとうございました!



わたしたちと一緒に
活動しませんか♪



ふくやまピース・ラボ イメージキャラクター「ピキゅう」

第20回・第21回・第22回・第23回 (2019.1.20/2.17/3.3/3.17)

2018 ピースアート制作



12月9日の「2018ふくやま人権・平和フェスタ」の会場で、平和のメッセージとともに、写真撮影の協力を呼びかけた結果、多くのメッセージが集まりました。そして、わたしたち「2018ふくやまピース・ラボ」の1年間の活動の様子を記録した写真と組み合わせ、合計100枚の写真で「ピースアート」を作成しました。

デザインは、メンバーそれぞれが考えたものの中から1つ、投票で今年のデザインを決定しました。今年の作品は、写真だけでなく絵も取り入れようと、色紙を使ってちぎり絵にも挑戦しました。

完成したピースアートは、今年も「まなびの館ローズコム」のエントランスホールに展示予定です。

〈展示期間〉2019年3月26日(火曜日)～5月8日(水曜日)

2018 ふくやまピース・ラボを終わって

■ 金子 愛佳（城南中学校3年）

今までの、ピース・ラボの活動を通じて、私たちが笑い、怒り、喜び、悲しむこの世界が、どれだけ幸せなものなのか痛感しました。今この瞬間も、戦争で受けた傷によって苦しむ人がたくさんいます。私たちの力はとても小さく弱いものですが、私たちは伝えなければいけません。世界に笑顔があふれるように、過去を受け継ぎ、未来へつなぐバトンとなります。



■ 桑田 衣里

私は、高2の頃からこのふくやまピース・ラボで活動を始めました。当初の活動は、何か物足りないものでした。ですが、人権平和資料館の職員さんたちから部落問題や人権について、そして人間の過ちである戦争について見聞きし、知識を得ることによってそれが喜びとなりました。また、毎年メンバーが入れ替わり、新しく出会う人たちとアイデアを共有することは楽しかったです。いろいろな人と交流の場が持てたことは、とても良い機会となりました。

この3年間の経験を糧に、更に自分を磨きあげていきたいと思います。



■ 藤井 杏香（福山葦陽高校1年）

3年目の活動でしたが、今年は「ふくやま人権・平和フェスタ」での朗読劇の発表が一番印象に残っています。演じるにあたって、当時の広島の様子や原爆被害の状況、登場人物の思いなど、学ぶことができました。

今年のメンバーは中学生が多く、自分の意見をしっかりと持っており、刺激を受けることがたくさんありました。「当たり前な日常に感謝する。そして、今ある当たり前な日常を守っていく責任がある。」と思えた1年でした。



■ 増田 花音（中央中学校3年）

ピース・ラボの活動の中で、人に伝えていくことの大切さを学びました。自分の知らないことを学ぶだけでなく、それを多くの人に伝えていくことで戦争の恐ろしさや命の尊さをいつまでも忘れずにいられると思います。

これからも、多くの人々と思いを分かち合うことを大切にしていきます。1年間ピース・ラボの活動に携わってくださった皆さんに心から感謝します。ありがとうございました。



■ 開原 弓喜（福山暁の星女子高校2年）

この1年今までにないほど平和について考えさせられました。例えば、平和とはどういう意味なのか…。どうすれば実現できるのか…。関われば関わるほど壮大で、何ができるか分からなくなってしまいました。

私は、被ばくしている曾祖父の思いを伝えたいと思い、「ふくやまピース・ラボ」と「高校生平和大使」を両立して活動してきました。活動の拠点は、福山市と広島市であり、できることは少しずつ違いました。しかし、根本は一緒に自分が平和を願い理想を追い続けることでした。理想を追うだけでは…と思われるかもしれませんが、理想を追うことこそ大切だと思いました。理想から現実になりそうなことを1つ1つ捨ててパズルを完成させ、いずれ平和像が見えてくることを信じて歩み続けたいと思っています。



■ 梶原 百恵（福山中学校3年）

戦争を知らない若い世代が、体験者のお話や戦争遺跡巡り、グループワークなどを通して平和について学び・考える活動に参加できて、本当によかったと思っています。この活動を通して、すべての人が生まれながらに持っている社会的権利「人権」の重要性についても考えることができました。

世界では、話し合っているばかりで「核廃絶・核軍縮」など、なかなか実行に移せない事柄がたくさんあります。私は、すべての人が生まれながらに持っている権利「安心・自由」を手に入れ、人類が大きな大きな家族として生きていける様になりたいと願っています。

私たちにできることは小さなことかもしれないけれど、福山空襲を心にとめ、世界の平和と人権の尊さについて考え、悲惨な戦争の歴史をきちんと学び、後世に伝えて行く事が大切だと思います。



■ 鈴木 克幸（大門中学校1年）

僕は、ふくやまピース・ラボで活動して、戦争について学びました。そして、さらに戦争の怖さ、恐ろしさを知りました。また、さまざまな人と関わることを通して、福山の人は優しいなと思いました。来年度もまた参加したいと思います。ありがとうございました。



■ 谷口 世玲奈（福山暁の星女子高校3年）

私は、ふくやまピース・ラボに入り、戦争の恐ろしさと仲間の大切さを改めて実感することができました。実際に、広島平和記念資料館を訪問したり、「原爆・福山戦災死没者慰霊式」に参加したり、たくさんの体験をすることができました。これからも、ふくやまピース・ラボで学んだことを心にとめ歩んでいきたいと思います。また、一緒に活動してきた方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



■ 外山 菜来（大門中学校1年）

この1年、ふくやまピース・ラボに参加してたくさんのことを学びました。今まで、浅くしか知らなかった戦争や原爆について、深く知り、考えました。そして、多くの人に戦争について伝えました。これからも、さらに多くの人に、戦争や原爆について伝えていきたいと思いません。



■ 羽原 涼太（福山中学校3年）

僕は、もともと「ふくやまピース・ラボ」について、よく知りませんでした。入ったきっかけは、勘違いして記入した紙が入会の紙だったということです。軽い気持ちで始めたこの活動も、いつしか自分の中でとても深いものになっていました。戦争のさまざまな歴史を知りました。体験談を聞いて、実際の戦争の悲惨さを学びました。募金活動をして、今も苦しんでいるたくさんの方々のことを知りました。慰霊式に参加して、亡くなった方々のたくさんのおもいを知りました。この活動のおかげで、今まで見えてこなかった景色が見えてきました。こんな悲しい出来事は、二度と起こることがないようにと願います。唯一の被爆国であるからこそ、日本から、広島から発信していかなければならないと思っています。



■ 松下 結音（幸千中学校3年）

私は、今の平和な時代があるのは、たくさんの方々の犠牲があつてのことだと知りました。この平和な日常がずっと続くように、周りの人への感謝の気持ちを忘れず、平和についてもっと深く学んでいこうと思います。



みんなで考えてみよう

平和の大切さ



発行 2019年3月
編集 福山市まちづくり推進部人権・生涯学習課
〒720-8501
広島県福山市東桜町3番5号
TEL (084)928-1006
FAX (084)928-1229